

本事例の基礎データ

カテゴリ	ICT 及び先端技術を活用した指導方法		
学校種	高校	事例提供者	都立三鷹中等教育学校
学年	3年生	教科等	日本史B（日本史演習）
単元名	歴史の論述		
主な ICT 機器	LTE タブレット PC（キーボード付き Surface Go 2 機／一人1台）		
授業の概要	日本の文化史のテーマを一つ取り上げてスライドにまとめ、オンライン国際交流で、課題を発表する。		
「情報活用能力 #東京モデル」の位置付け	情報活用	STEP5	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて収集した資料から、傾向や変化を客観的に捉えられる ・Web、SNS、ライブ配信等、相手や目的に応じて効率的に情報の発信・交信ができる

本事例における教育の情報化について

【ポイント1】	<p>日常的な一人1台タブレットの活用</p> <p>授業では、一人1台の端末を利用している。それにより、自分の学習に集中することができ、学びを深めることにつながる。また、自宅学習においても課題作成・動画視聴（反転授業）等で活用している。</p>
【ポイント2】	<p>統合型学習支援クラウドサービス（Teams）の活用</p> <p>生徒はHRや授業ごとのチームに所属し、授業の課題や係活動などに活用している。また、自宅学習期間では、全ての教科で同時双方向型オンライン授業を45分×7コマ実施している。</p>
【ポイント3】	<p>オンラインでの歴史的資料の収集と分析</p> <p>全国区からアクセスできる博物館、美術館、公文書館や図書館など（外務省外交史料館、国立公文書館、アジア歴史資料センター、国立博物館など）のデジタル資料や検索システム、また、各都道府県・市町村立博物館、文書館、図書館などのデジタル資料を、授業のねらいを踏まえて活用している。</p>

本単元（題材）における指導の流れ

時間	●主な学習活動 ・生徒の活動	○支援・留意点 ☆評価
1 〜 3	<p>●歴史の流れを組み立てる【ポイント1・ポイント3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界記憶遺産に登録された山本作兵衛の炭鉱画を通して、八幡製鉄所を支えた筑豊炭田、そこに暮らす人々の営み、戦後のエネルギー革命に着目して、石炭産業の歴史を考察し、それを表現する方法を学ぶ。 ・この学習を参考に自ら適切な主題を設定して歴史を探究し、表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料に基づいて石炭産業の歴史が叙述されていることに気付かせる。 ○多様な方法を用いて歴史的資料を収集し、有用な情報を読み取り、選択して活用させる。 ☆一連の炭鉱画を読み解いて得られた情報を、既習知識と結びつけて、多面的・多角的な考察している。
4 (本時)	<p>●台湾とのオンライン国際交流で、課題を発表する。</p> <p>【ポイント1・ポイント2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾の大学生とグループを作り、お互いに準備した課題を発表し合い、疑問や質問を交わしたり、内容について議論したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を発表、討論などによって適切に表現させる。 ☆多くの事実や確たる根拠に基づき、多角的に分析・判断している。

本時の流れ

段階	●主な学習活動・生徒の活動	○支援・留意点 ☆評価
導入	<p>●作成した発表資料の確認 【ポイント1・ポイント2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに集まり、各自が Teams にアクセスする。 ・グループごとに発表内容について確認する。 	<p>○学習支援クラウドサービスの Teams で台湾の大学生とオンライン接続をする。</p>
展開	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">台湾の大学生に向けて発表しよう</div> <p>●グループでの発表【ポイント1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介後、ブレイクアウトセッションでグループごとに分かれる。 ・各自が調査してまとめたスライドを画面共有し、台湾の大学生へ発表する。 ・自分の発表との違いを捉えながら、台湾の大学生からの発表を聞く。 <p>●グループでの協議、質疑応答【ポイント1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・双方の発表内容に関する質疑応答を通じて、多角的に考察する。 ・協議や質疑応答の内容は、Word や OneNote に記録しておく。 	<p>○学習支援クラウドサービスの Teams のブレイクアウトセッションでグループ発表を開始する。</p> <p>☆相手や目的に応じて、効果的に表現できる【知識・技能】</p> <p>○対話のスタイルは自分たちで工夫してもよいことを伝え、積極的に発言するようにする。</p> <p>☆できるだけ多くの事実や確たる根拠に基づき、多角的に分析・判断している。【思考力・判断力・表現力等】</p>
まとめ	<p>●閉会の挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表生徒によるまとめ、感想の発表を行う。 ・記念撮影を行う。 	<p>○アンケート機能（Forms）で本時の振り返りについて回答を送信させ、ルーブリック評価を実施する。</p>

授業の実際

【ポイント1】 ●日常的な一人1台タブレットの活用



全員が Microsoft の O365 アカウントを所持し、生徒全員にキーボード付き Surface Go 2 が貸与されているため、校内の無線 LAN に接続し、自分の端末でログインして学習を進めている。

【ポイント2】 ●統合型学習支援クラウドサービス（Teams）の活用



海外とのオンライン国際交流、全校規模の行事のオンライン配信及び新型コロナウイルス感染症対策による自宅学習は、統合型学習支援クラウドサービスの Teams を活用している。

【ポイント3】 ●オンラインでの歴史的資料の収集と分析



全国からアクセスできる博物館、美術館、公文書館や図書館など（外務省外交史料館、国立公文書館、アジア歴史資料センター、国立博物館など）のデジタル資料や検索システム、また各都道府県・市町村立博物館、文書館、図書館などのデジタル資料を、授業のねらいを踏まえて活用している。

今後に向けて

- Teams を用いたグループでの協議の際、議論が活性化して思考が深まる質問ができるよう、指導が必要である。
- 統合型学習支援クラウドサービス（Teams、Zoom、Classi など）が3～4種類、用途に応じて混在している。今後は Teams に一本化していく。